

# 12月23日

12月23日は祝日。

**現在の平成天皇の生まれた日、1933(昭和8)年12月23日。天皇は今年、80歳。  
また、東京タワーが完成、お披露目をした日。1958(昭和33)年12月23日、東京タワーは今年55周年。**

朝日新聞【中田絢子、島康彦】

天皇陛下は23日、傘寿(さんじゅ)となる80歳の誕生日を迎え、これに先だち皇居・宮殿で記者会見した。これまで最も印象に残っていることに「先の戦争」を挙げ、「前途に様々な夢を持って生きていた多くの人々が、若くして命を失ったことを思うと本当に痛ましい限りです」と述べた。

(宮内記者会代表質問)

(問1)陛下は傘寿を迎えられ、平成の時代になってまもなく四半世紀が刻まれます。昭和の時代から平成のいままでを顧みると、戦争とその後の復興、多くの災害や厳しい経済情勢などがあり、陛下ご自身の2度の大きな手術もありました。80年の道のりを振り返って特に印象に残っている出来事や、傘寿を迎えられたご感想、そしてこれからの人生をどのように歩もうとされているのかお聞かせ下さい。

【陛下】80年の道のりを振り返って、特に印象に残っている出来事という質問ですが、やはり最も印象に残っているのは先の戦争のことです。私が学齢に達した時には中国との戦争が始まっており、その翌年の12月8日から、中国のほかに新たに米国、英国、オランダとの戦争が始まりました。終戦を迎えたのは小学校の最後の年でした。この戦争による日本人の犠牲者は約310万人とされています。前途に様々な夢を持って生きていた多くの人々が、若くして命を失ったことを思うと、本当に痛ましい限りです。

戦後、連合国軍の占領下にあった日本は、平和と民主主義を守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、様々な改革を行って、今日の日本を築きました。戦争で荒廃した国土を立て直し、かつ、改善していくために当時の我が国の人々の払った努力に対し、深い感謝の気持ちを抱いています。また、当時の知日派の米国人の協力も忘れてはならないことと思います。戦後60年を超す歳月を経、今日、日本には東日本大震災のような大きな災害に対しても、人と人の絆を大切に、冷静に事に対処し、復興に向かって尽力する人々が育っていることを、本当に心強く思っています。

傘寿を迎える私が、これまでに日本を支え、今も各地で様々な我が国の向上、発展に尽くしている人々に日々感謝の気持ちを持って過ごせることを幸せなことと思っています。既に80年の人生を歩み、これからの歩みという問いにやや戸惑っていますが、年齢による制約を受け入れつつ、できる限り役割を果たしていきたいと思っています。

80年にわたる私の人生には、昭和天皇を始めとし、多くの人々とのつながりや出会いがあり、直接間接に、様々な教養を受けました。宮内庁、皇宮警察という組織の世話にもなり、大勢の誠意ある人々がこれまで支えてくれたことに感謝しています。

天皇という立場にあることは、孤独とも思えるものですが、私は結婚により、私が大切にしたいと思うものを共に大切にしてくれる伴侶を得ました。皇后が常に私の立場を尊重しつつ寄り添ってくれたことに安らぎを覚え、これまで天皇の役割を果たそうと努力してきたことを幸せだったと思っています。

これからも日々国民の幸せを祈りつつ、努めていきたいと思っています。

東京タワーは「東京のシンボル」、  
東京タワーは富士山と同じく「日本人の心の支え」です。

2013年は55周年(ゴーゴー go go)記念日。

1958年に完成したとき(電波塔)はパリのエッフル塔より13メートル高、世界一で、東京の100キロ圏がカバーできる電波塔でした。

展望台から東京の東西南北が見渡せ、絶景！  
1000万都市 東京の活動が実感できます。

富士山と一緒に、遠くからでも東京タワーが見えるとほっとします。

地方から東京にでてくると、まず行きたいとおもうのが東京タワーだった。修学旅行の定番……

東京タワー開業55周年記念  
エッセイコンテスト

いつも変わらずそこにある。  
～わたしたちの東京タワー物語～

あなたは「東京タワー」といつ、どこで出会いましたか？

東京タワーを初めて知ったとき、目にしたとき、昇ったとき、あなたは何歳だったでしょうか。東京タワーはどんな存在でしようか。東京タワーは今年で開業55周年。みなさんと共に歩み、年を重ねてきました。そしてこれからもずっと変わらない姿で、「日本人の心の支え」でありたいと思います。あなたは、東京タワーとどんな思い出を語り合いたいですか。これからの東京タワーにどんな夢を抱きますか。あなただけが知っている東京タワーについて書いたエッセイを募集いたします。

応募締め切り

平成25年10月20日(日) 当日消印有効

ホームページ <http://www.tokyotower.co.jp/essay> 主催 日本電波塔株式会社